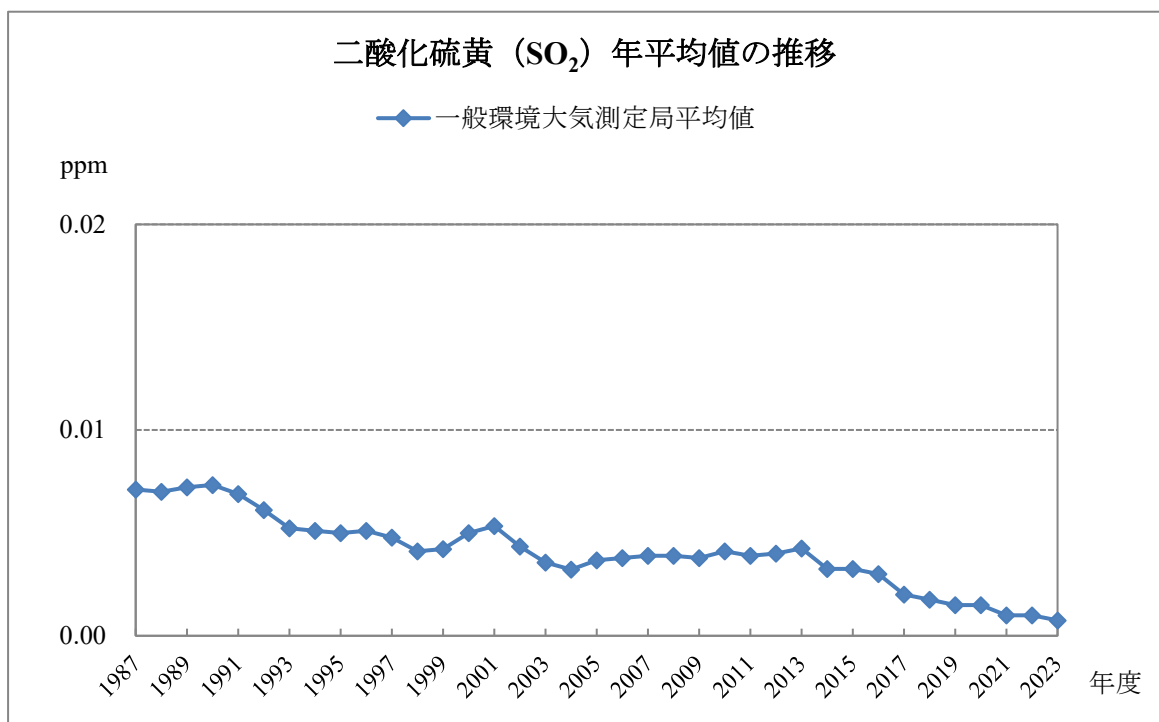
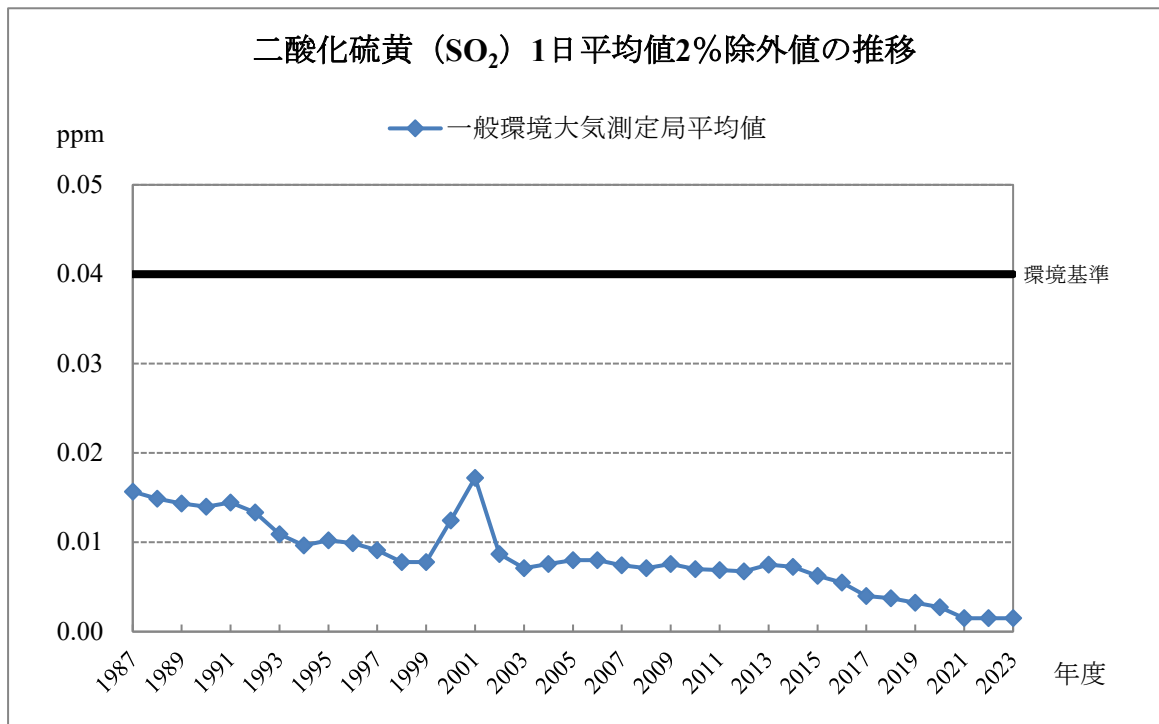


(2) 近年の状況と推移

1 二酸化硫黄 (SO₂)

二酸化硫黄については、2000 ～ 2002 年度に三宅島火山の噴火による影響があるが、継続して全局で環境基準を達成している。(長期的評価)

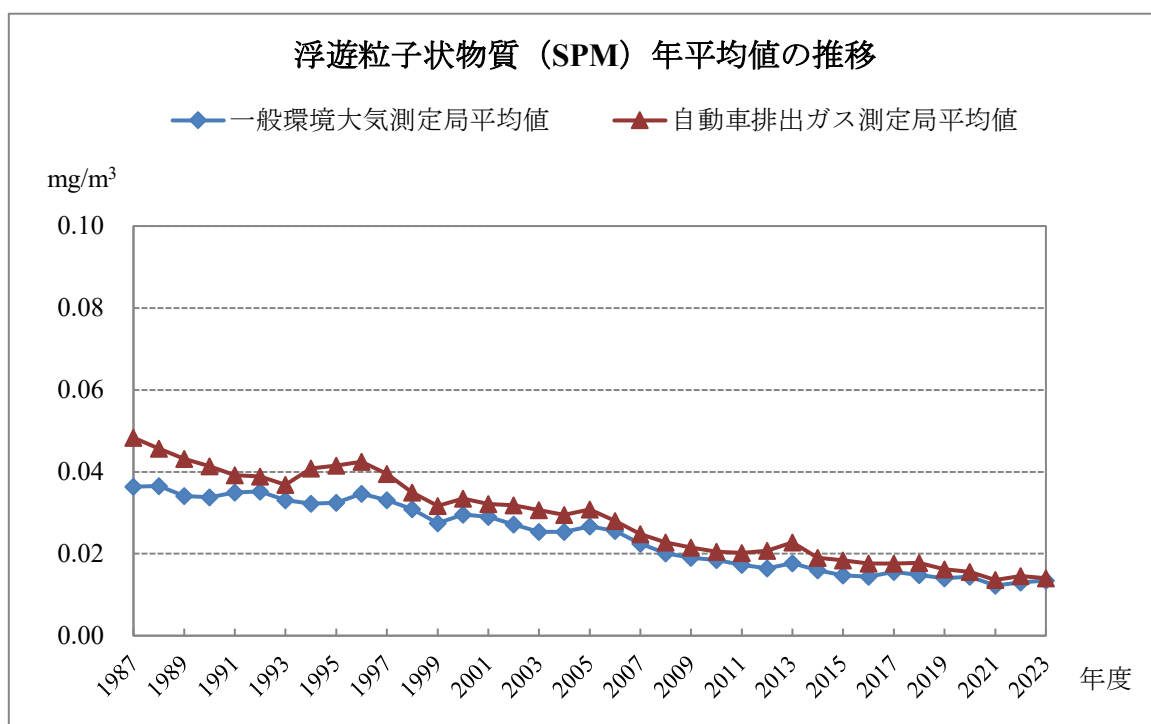
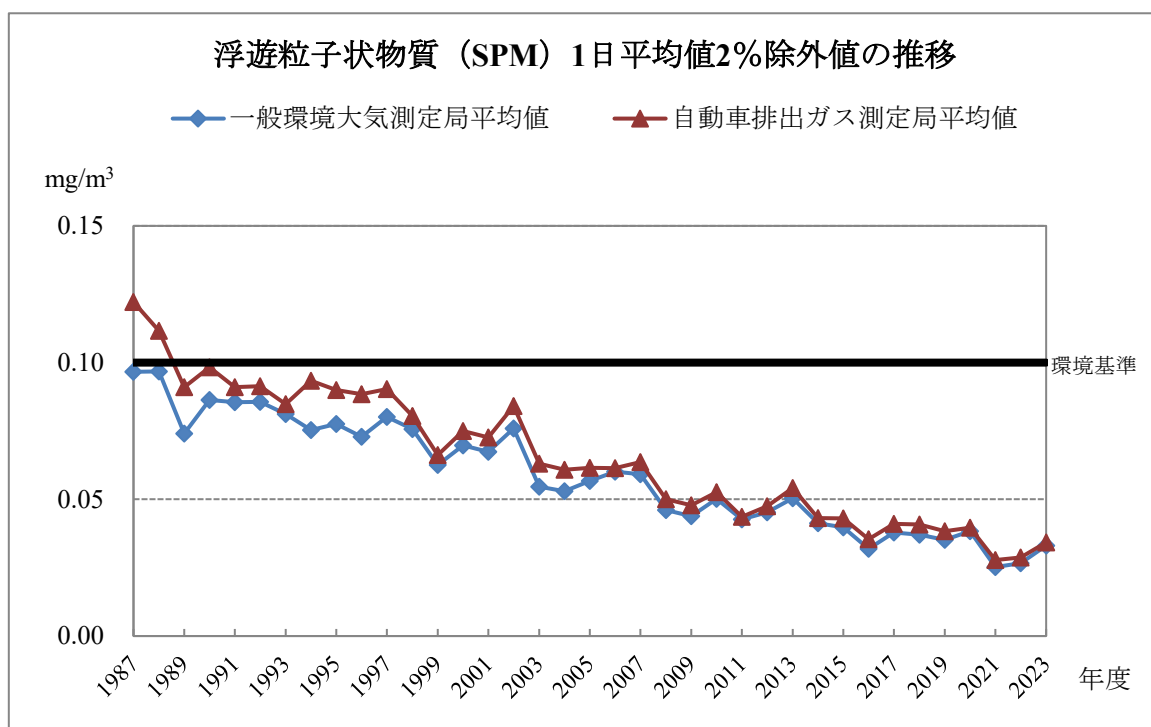
1 日平均値 2%除外値、年平均値は共に、2014 年度以降、下降傾向で、低濃度を維持している。



2 浮遊粒子状物質（SPM）

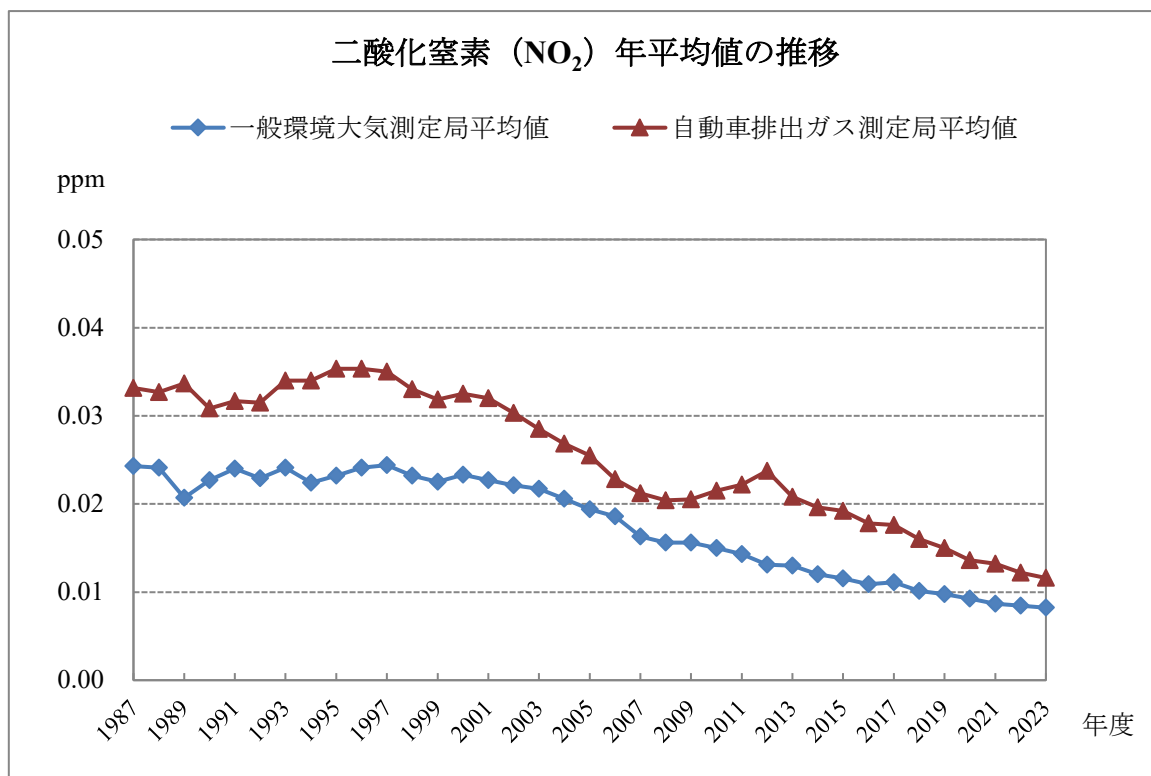
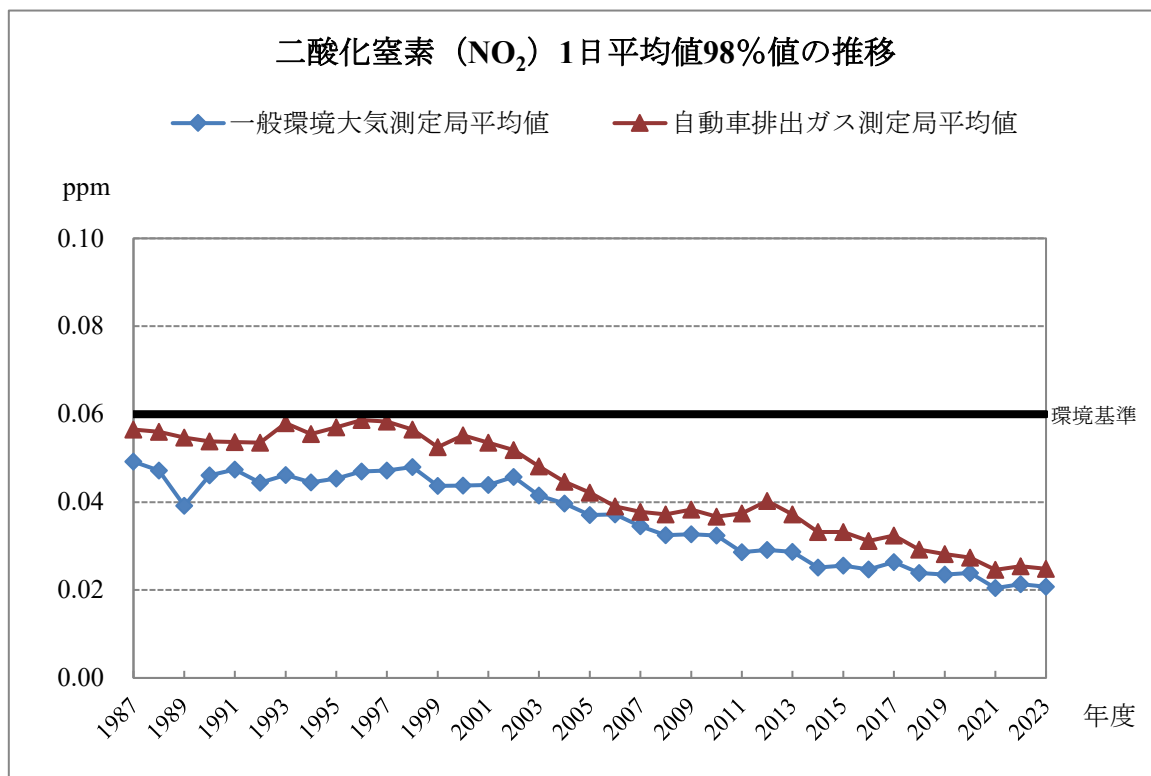
浮遊粒子状物質については、2003 年度以降、2011 年度を除いては全局で環境基準を達成している。2011 年度は黄砂の影響により、環境基準を超える日が 2 日以上連続したため環境基準が非達成となった。（長期的評価）

年平均値は、2014 年度以降、一般環境大気測定局、自動車排出ガス測定局ともに、 $0.02\text{mg}/\text{m}^3$ 以下を維持している。



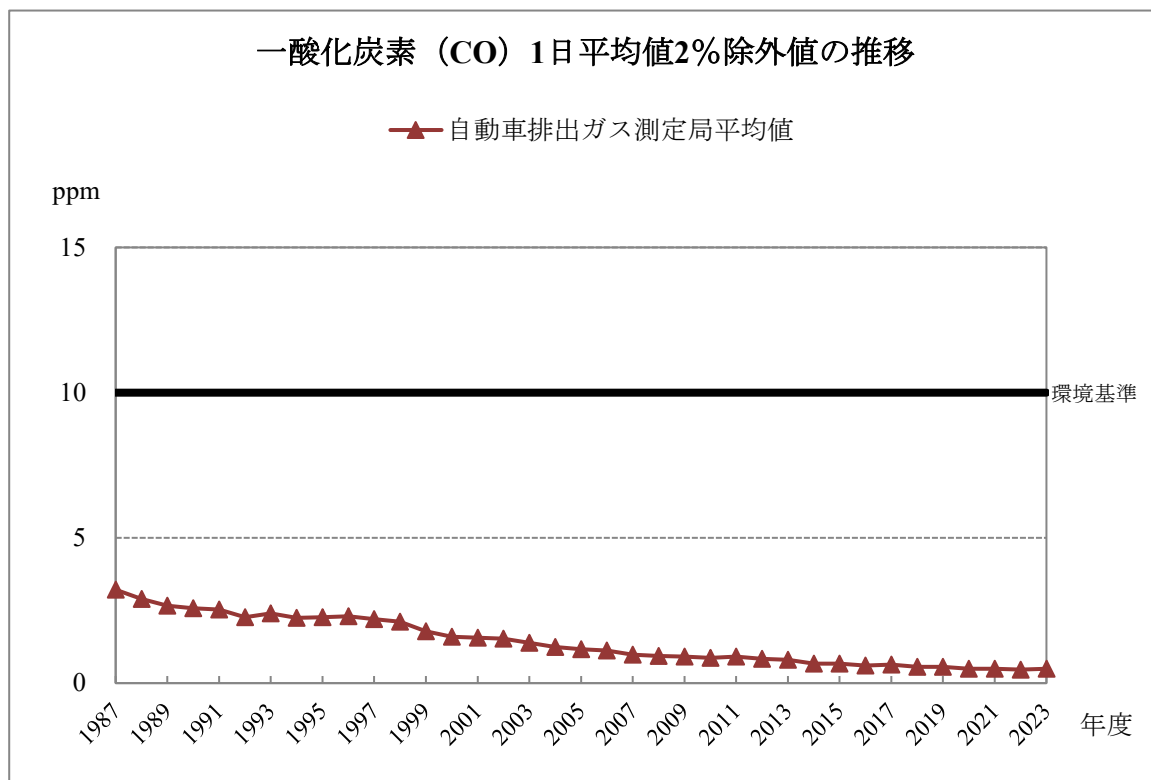
3 二酸化窒素 (NO₂)

二酸化窒素については、2003 年度以降は、全局で環境基準を達成している。(長期的評価) 年平均値について、2013 年度以降、下降傾向である。



4 一酸化炭素（CO）

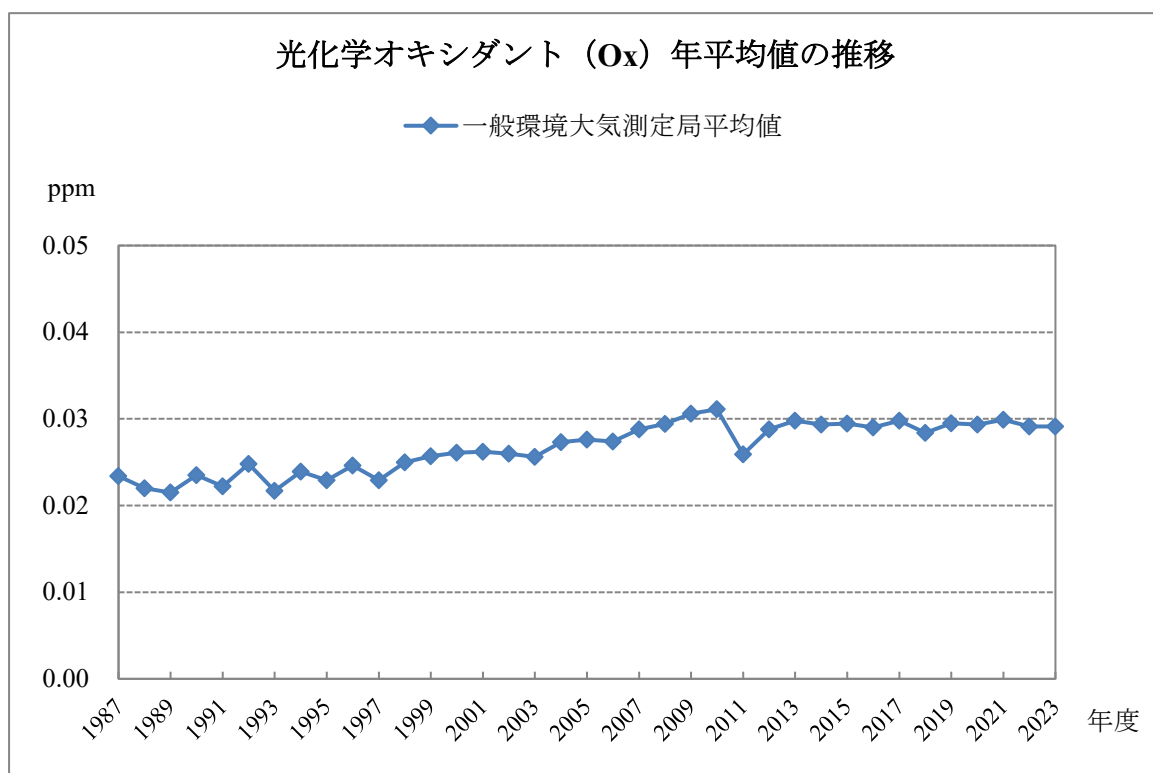
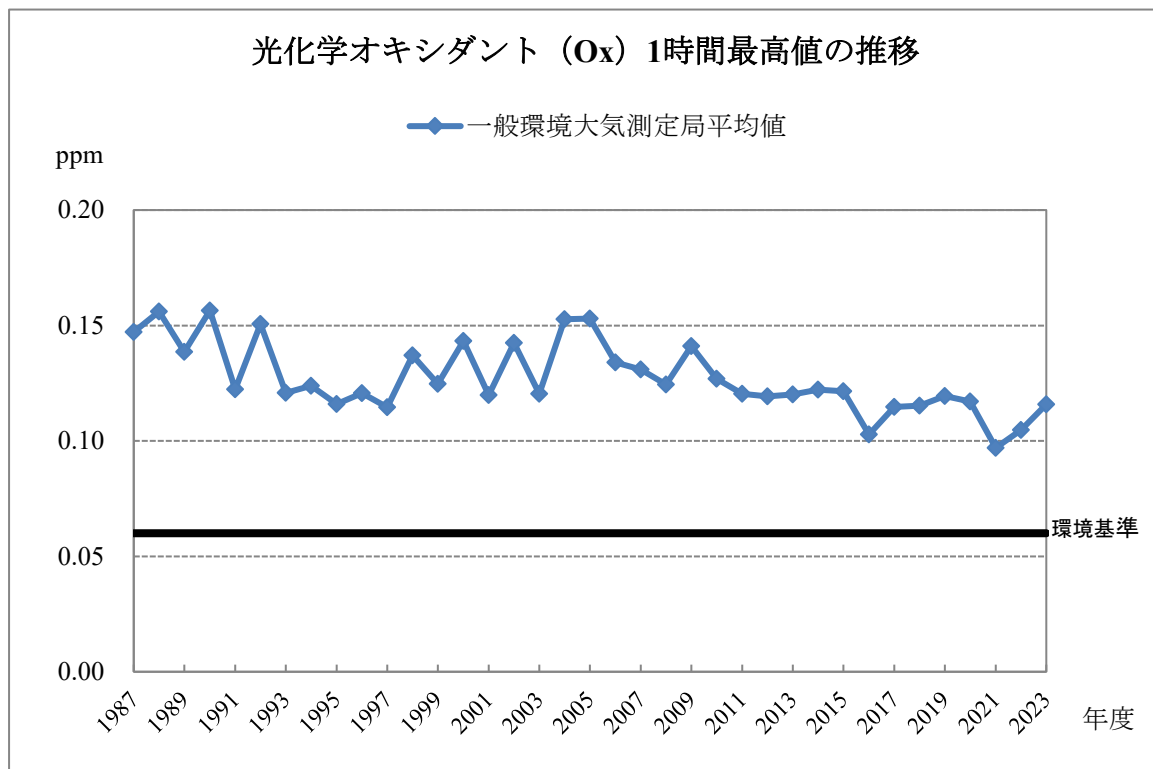
一酸化炭素については、継続して全局で環境基準を達成しており、基準値よりかなり低い値で推移している。（長期的評価）



5 光化学オキシダント (Ox)

光化学オキシダントについては、全国的にその濃度が上昇していたが、近年、本市では、横ばい傾向にある。

環境基準については、全局で非達成となっている。



6 微小粒子状物質 (PM2.5)

微小粒子状物質は、2011 年 10 月から 6 箇所の測定局で測定を開始した。環境基準の評価については、有効測定日数（年間 250 日以上）を満たした測定局を対象とし、2012 年度 6 局、2013～2018 年度 11 局、2019 年度 10 局、2022 年度以降 11 局で行っている。

1 日平均値 98% 値及び年平均値は、長期的に見ると、測定開始以降、減少傾向である。

1 日平均値 98% 値については、環境基準の $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下（短期的評価）を、2015 年度以降、有効測定局全局で達成している。

年平均値については、2016 年度以降、環境基準の $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下（長期的評価）を有効測定局全局で達成している。

